

◎ Fit to Standard 徹底理解ガイド

1. Fit to Standardとは何か（定義と背景）

Fit to Standardとは、ERP導入において、まずソフトウェアが提供する**業務標準プロセス**に**自社業務を合わせ**、**カスタマイズを最小限**に抑える導入手法です。

これにより、**導入期間短縮・コスト削減・保守性向上**を実現します。
SAPでは特に、SAP S/4HANA Cloud ERPで採用されている中核アプローチです。

◎ Fit to Standard 徹底理解ガイド

2. 従来型ERPとの比較

項目	Fit to Standard	カスタマイズ型ERP
導入期間	約8～12か月	約12～24か月
導入コスト	中	高
業務適合	標準プロセスに合わせる	自社仕様に完全対応
アップデート対応	半年ごと自動適用	手動適用（追加費用）
将来の保守性	高	中～低

※上記、導入期間・導入コストについては、あくまで目安として想定ください。

◎ Fit to Standard 徹底理解ガイド

3.導入プロセス（SAP Activate準拠）

Fit to Standardは、SAP Activateという標準メソドロジーに沿って進められます。
主なステップは以下の通りです：

1. Discover（検討・情報収集）
2. Prepare（準備・体制構築）
3. Explore（標準プロセスとのフィット検証）
4. Realize（設定・移行）
5. Deploy（本稼働）
6. Run（運用・継続改善）

※ 1 のDiscoverのフェーズについては、次回のニュースレターで詳細をお伝えします。

◎ Fit to Standard 徹底理解ガイド

4. メリットとデメリット

メリット	デメリット
導入期間の短縮	標準プロセスに合わせるため、業務変更が必要な場合がある
コスト抑制（TCO低減）	特殊要件は拡張開発や外部連携が必要
最新技術・法制度対応の即時反映 （半年に1回のアップデート）	
保守運用負荷の軽減 （インフラコストがライセンス料に含まれ、OSのアップデート等を気にする必要がない）	

◎ Fit to Standard 徹底理解ガイド

5. 成功のポイント

ERP導入の成功のポイントは以下にあります。

◎：**現状の業務を分析し、見直しをしていく**

まずは、現状の業務を見直しをし、現場部門・システム部門・上層部が、相互理解をしながら進めることができます。

- ・SAPの標準で対応できるところ、失くすところはどこか
- ・回避策を策定し運用でカバーするところはどこか
- ・企業としてどうしても大切にしたいところ(拡張開発or他システム対応)はどこか

◎：**稼働がゴールではない**

稼働後での定期的なバージョンアップも含めて、
随時あるべき姿を目指して対応していくことが必要です。

※上記をおこなうにあたって、事前の業務の整理・洗い出しが重要です。

次回は、上記の導入の成功のポイントが詰まっている、Discoverフェーズにおける
Discovery Workshopをご紹介します。

長野日本ソフトウェア システム営業部
contact@nsk-japan.co.jp